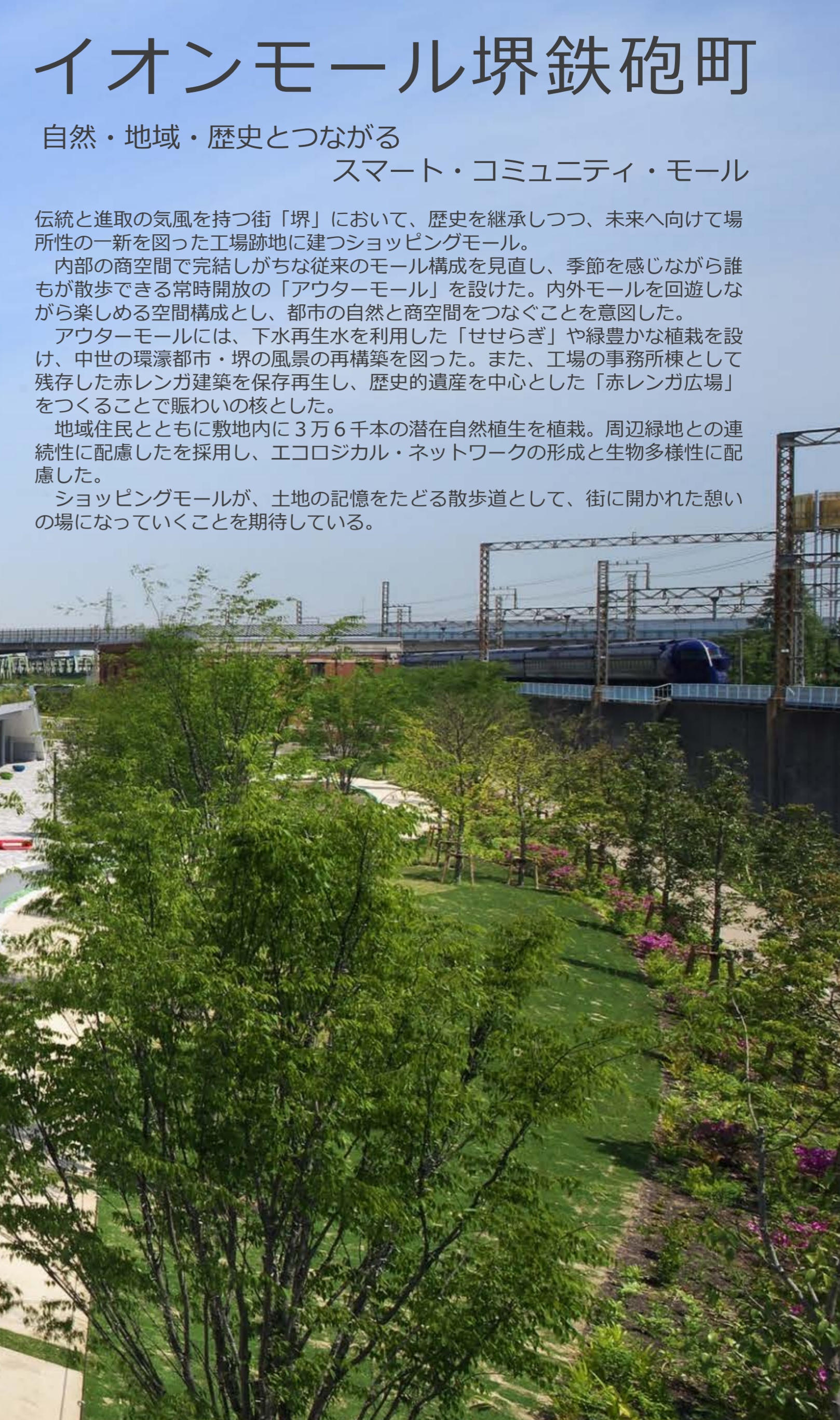


イオンモール堺鉄砲町

自然・地域・歴史とつながる
スマート・コミュニティ・モール

伝統と進取の気風を持つ街「堺」において、歴史を継承しつつ、未来へ向けて場所性の一新を図った工場跡地に建つショッピングモール。
内部の商空間で完結しがちな従来のモール構成を見直し、季節を感じながら誰もが散歩できる常時開放の「アウターモール」を設けた。内外モールを回遊しながら楽しめる空間構成とし、都市の自然と商空間をつなぐことを意図した。
アウターモールには、下水再生水を利用した「せせらぎ」や緑豊かな植栽を設け、中世の環濠都市・堺の風景の再構築を図った。また、工場の事務所棟として残存した赤レンガ建築を保存再生し、歴史的遺産を中心とした「赤レンガ広場」をつくることで賑わいの核とした。
地域住民とともに敷地内に3万6千本の潜在自然植生を植栽。周辺緑地との連続性に配慮したを採用し、エコロジカル・ネットワークの形成と生物多様性に配慮した。
ショッピングモールが、土地の記憶をたどる散歩道として、街に開かれた憩いの場になっていくことを期待している。



線路沿いの「アウターモール」は、24時間誰もが自由に利用できる、緑とせせらぎの散歩道として計画した。

商空間と都市の自然をつなぐアウターモール

国内初となる下水再生水の高度複合利用（熱源と水源のカスケード利用）を行い、省エネルギーと環境負荷低減を実現。熱利用後の水資源を敷地内のせせらぎに有効活用し、ランドスケープと設備がコラボレートした景観を形成。歴史ある旧環濠の水環境を再生し、地域環境の向上に貢献した。



せせらぎ夕景



スーパー堤防の高低差を利用したせせらぎの流れ

地域とつながるランドスケープ

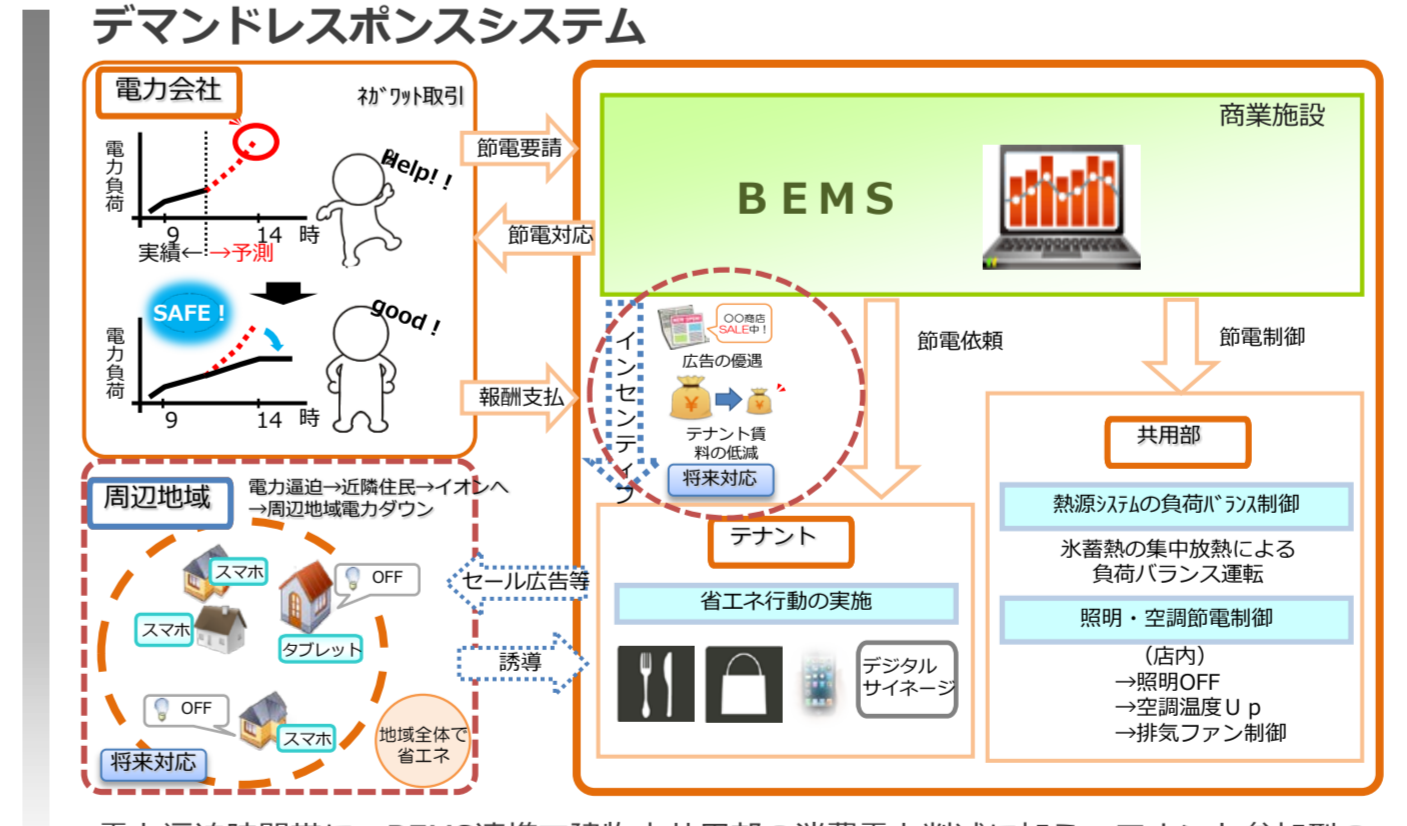


豊かな緑地やせせらぎ、アウターモールなどの取り組みが、生物多様性とサステナビリティに寄与するとして、いももの共生事業所 (ABINC) に認証。



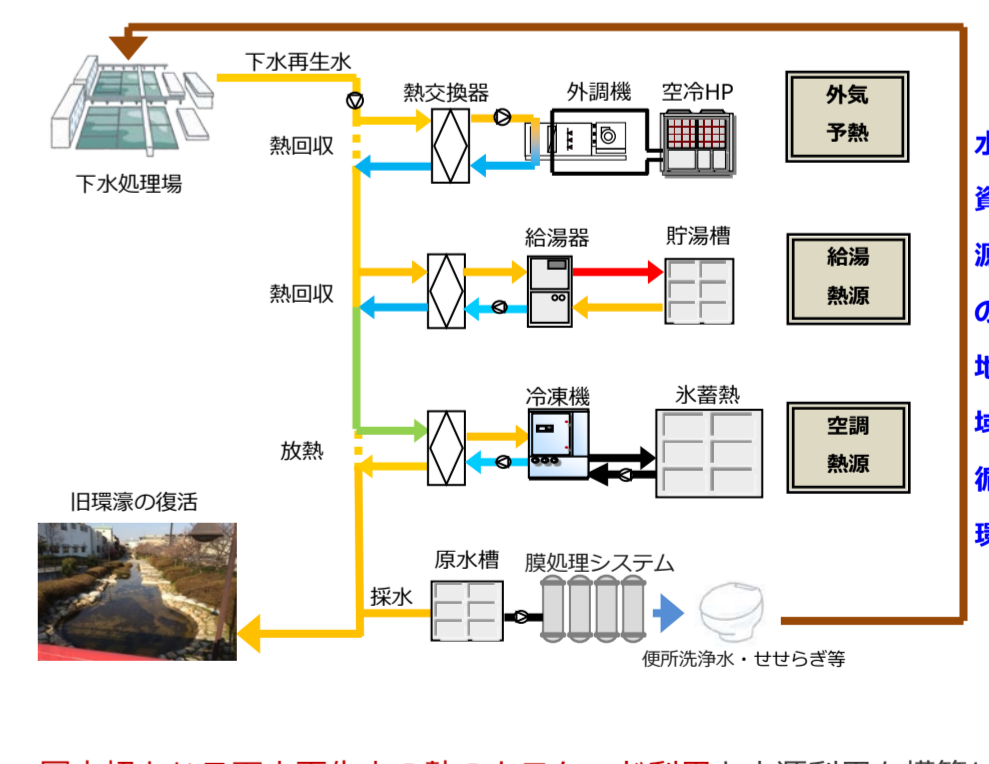
敷地周辺の水・緑の分布と生態系ネットワーク

地域とつながるスマートコミュニティの取り組み



電力逼迫時間帯に、BEMS連携で建物内共用部の消費電力削減に加え、テナント参加型の省エネシステムを構築した。将来的には地域全体のデマンドレスポンスに貢献する。

未利用エネルギーの有効活用 下水再生水（熱・水源）



国内初となる下水再生水の熱のカスケード利用と水源利用を構築した。地域の既存ストックの有効活用にも貢献している。

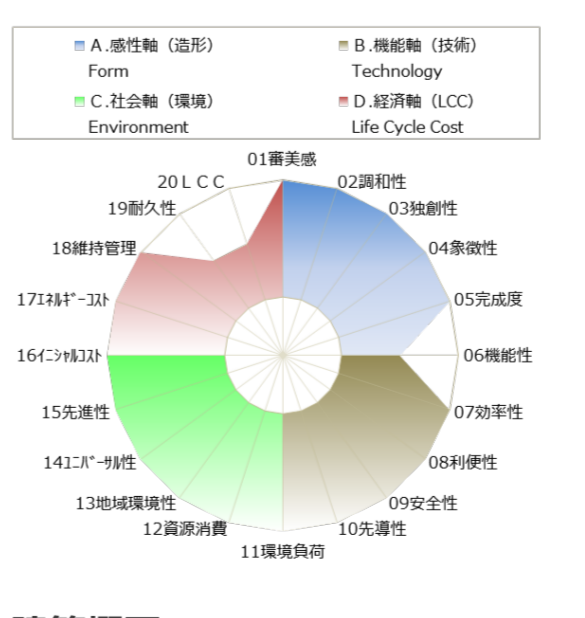
過去と未来をつなぐ一歴史遺産・赤レンガ館の保存と再生



大阪ミュージアム構想に登録されている既存の赤レンガ館を耐震改修し、レストランとして再生保存。イベントステージを設けた赤レンガ広場と一体利用ができる、賑わい空間を創出している。



上) RC耐震壁+木トラスでリニューアールされた内部
下) 内部木造床・屋根の解体



建築概要
 開発面積：91,113.49㎡
 敷地面積：86,539.01㎡
 建築面積：40,126.13㎡
 延べ面積：134,886.31㎡
 階数：地上4階、塔屋1階
 高さ：21.0m
 構造：S造

評価項目	3次元視点の視点	評価項目に対する設計者のデザイン意図		自己評価欄	
		達成している	達成していない	達成している	達成していない
A. 感性軸 (造形) Form	01 審美性	○	○	○	○
	02 調和性	○	○	○	○
	03 趣向性	○	○	○	○
	04 象徴性	○	○	○	○
	05 完成度	○	○	○	○
B. 機能軸 (技術) Technology	06 機能性	○	○	○	○
	07 利便性	○	○	○	○
	08 操作性	○	○	○	○
	09 安全性	○	○	○	○
	10 信頼性	○	○	○	○
C. 社会軸 (環境) Environment	11 環境内蔵	○	○	○	○
	12 環境内蔵	○	○	○	○
	13 地域環境性	○	○	○	○
	14 社会性	○	○	○	○
	15 未来性	○	○	○	○
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost	16 LCC削減	○	○	○	○
	17 LCC削減	○	○	○	○
	18 維持管理	○	○	○	○
	19 耐久性	○	○	○	○
	20 LCC削減	○	○	○	○